

中央図書館学校図書館支援センター通信 No.19



平成 29 年 3 月発行
中央図書館 学校図書館支援センター(担当区:東区・中央区)
〒950-0084 新潟市中央区明石 2-1-10
TEL: 025-246-7700 FAX: 025-246-7722
E-mail: chuo.cl@city.niigata.lg.jp

平成 28 年度東区・中央区学校司書実務研修 1 月 30 日(月)実施

報告 子どもの発達と特別支援教育 ～学校司書としての係わり

平成 28 年 4 月に「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」が施行されました。学校図書館でも、全ての子どもが読書を楽しみ、自ら学べる環境づくりが求められています。また、学校図書館には「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能のほかに、「心の居場所」という側面もありますが、学校司書は教育職ではなく、状況によって子どもとの対応に悩んだり、戸惑ったりすることがあります。

今回の研修では、子どもの発達や特別な支援が必要な児童生徒について理解を深め、対応方法を学ぶことで、個に応じた読書支援と、どの子にとっても居心地のよい図書館づくりにつながるよう、講演とグループ協議を行いました。

講演では、講師の齋藤先生から特別支援教育の対象となる児童生徒の定義について確認し、知的障がいと発達障がいの違いや、「アスペルガー症候群(自閉症スペクトラム)」「学習障がい」「ADHD」について明快に解説していただきました。豊富な具体例を交え、障がいを理解するために“飲み込みづらさ”の体験をしたり、日常で気になる子にどう働きかけるかを考えるなど、参加者が自分に置き換えて考えられる内容でした。多様な特性や興味に応じるため、好まれる絵本の傾向も教えていただき、最後には「一人職である学校司書の専門性を生かした支援を期待する」とのエールをいただきました。

グループ協議では、中学校区に分かれて、子どもとの対応の中で「心掛けていることや失敗談」を共有し、アドバイスを出し合いました。

《講師》



学校支援課
特別支援教育班
齋藤いずみ総括指導主事

参加者の声



- 特別支援教育の研修を初めて受けたので、勉強になった。
- 「困っている子」の立場になって考え、寄り添っていきたい。
- 安心できる居場所づくりを心掛けたい。
- 「やさしい言葉にはやさしい表情がついてくる」という言葉が印象に残った。
- 統一した方針で対応できるよう、職員間の情報共有や意見交換が大事だと分かった。
- 日々の悩みや疑問、他校の様子を共有できて、有意義だった。

授業における

学校図書館活用

～貸出図書搬送における感想メモから

学校貸出図書搬送を利用した学校には、役に立った資料・活用の様子・要望等について記録用紙に書いていただいています。その中から一部をご紹介します。



Q. どのように資料を活用しましたか？

小学2年 国語

「いつたえられているおはなしを知ろう」

『にいがたの昔話2』（新潟県小学校図書館協議会／編）から、下越地区の昔話を5つピックアップ。地域の特徴を紹介して、児童に物語を読ませた。普段はあまり手に取られない本だが、読み聞かせも大好評で、「もっと読んでみたい」「いつから借りられますか？」など児童の反応がとてよかった。

小学6年 家庭

「くふうしようおいしい食事」

発展学習として、おせち・お正月料理を調べた。おせち料理のいわれや種類について調べ、新聞にまとめ、冬休みの課題として全員がおせち料理やお正月料理を作る実践にも取り組んだ。自校資料も十分活用し、クラス全員に1冊ずつ行き渡るよう市立図書館の本も使用することでさらに活動に取り組みやすくなった。

中学2年 総合

修学旅行（京都・奈良）

各学級に資料が行き渡り、同時に調べることができた。学級毎→グループ毎と調べるには貸出期間が足りず、団体貸出利用では限界を感じた。約3か月学年全体で修学旅行関係の授業が行われるため、タイミングよく資料を提示するのが難しく、結局自校で購入した本に頼ることになった。

中学3年 社会

「どのようにして東京オリンピックを成功させるか」

学習課題の解決のため、1学級6班編成で調べ学習を行った。その際、配った資料をどの生徒も活用していた。活動の導入として、リオオリンピックの閉会式の新聞記事を資料として活用した。東京オリンピックにつながる記述がたくさんあり有効だった。

Q. 教員と司書はどのように連携しましたか？

司書からアニメーションを紹介され、実施した。授業者と司書で、どの本が適当か相談した。1人1冊ずつ本を用意し、自由な時間に各自のペースで予読することができた。（教員）

授業者から授業単元の略案をもらい、相談して資料を揃えた。本を使う場合には、出典を必ず明記するように先生方をお願いした。（司書）

目次と索引を学習する際に、授業者と司書の2人で自校にある図鑑を評価・検討し、選んだ。その後、市立図書館から同一資料を複数冊借りた。（司書）

ポイント



教員と学校司書が具体的な打ち合わせをしたり、協働で資料検討したりする事例が増えています。学校図書館の資料を補てんするために、市立図書館の団体貸出を申し込んでも、予定していた資料や必要な冊数を確保できないことがあり、代替案を検討することもあります。また、学校司書が目次・索引の使い方や百科事典の引き方、調べ学習のテーマに関連する分類・資料の紹介等を行う時は事前準備が必要です。思いついたら、まず相談を！